

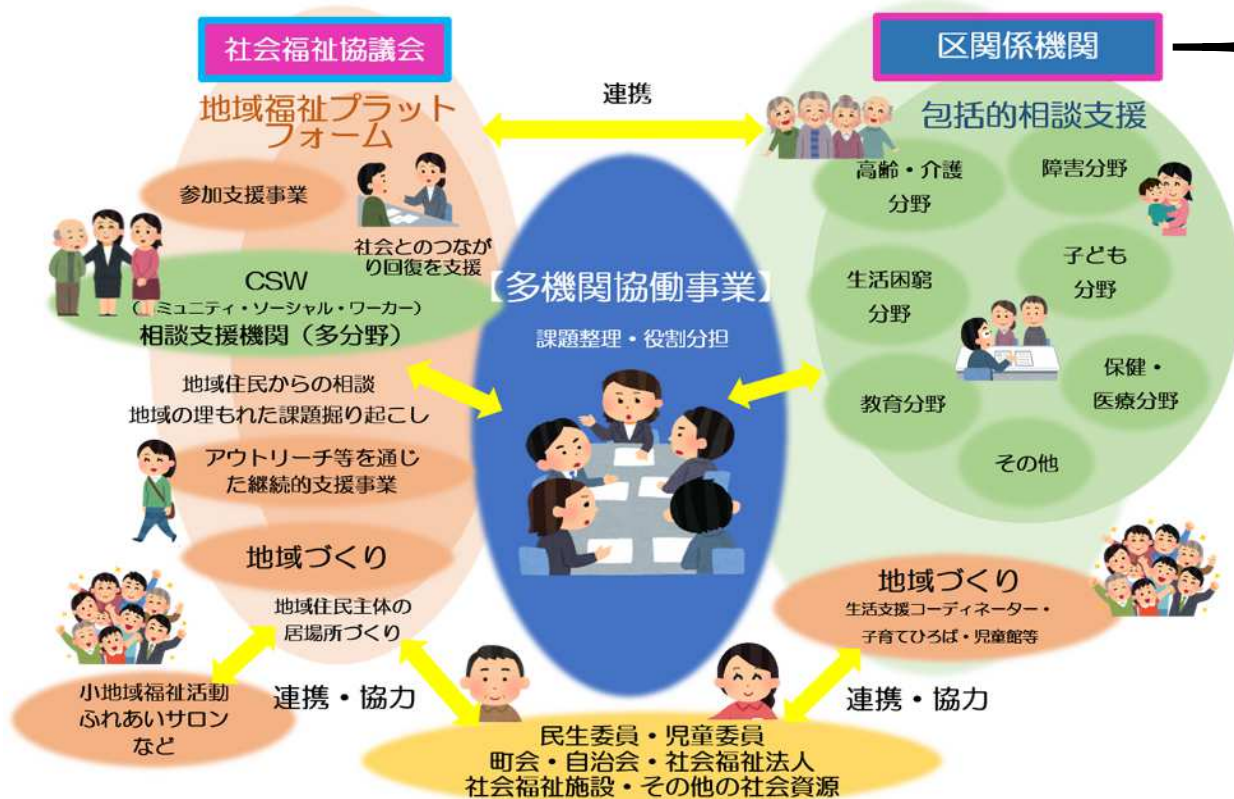
第4次墨田区地域福祉計画 における重点取組事業の報告

令和5年3月29日 第2回墨田区地域福祉計画推進協議会

墨田区包括的支援体制整備事業

高齢・介護、障害、子ども、生活困窮等の分野別に行われてきた既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを活かし、分野別の支援体制では対応しきれないような「複雑化・複合化した支援ニーズ」や「制度の狭間にある課題」に対応する包括的な支援体制を構築する。

重層的なセーフティネットの強化を図り、地域共生社会の実現をめざすことを目的として、属性を問わない相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援等を一体的に実施する。



【福祉保健部】

厚生課、生活福祉課、
障害者福祉課、介護保険課、
高齢者福祉課

【保健衛生担当】

保健計画課、保健予防課
本所保健センター
向島保健センター

【子ども・子育て支援部】

子育て支援課、子育て政策課
子育て支援総合センター

【地域力支援部】

地域活動推進課

【都市計画部】

住宅課

【教育委員会事務局】

指導室、すみだ教育研究所

令和3年度と4年度の取組状況

(1) 令和3年度 ※ 試行実施

▼主な取組

- ・ 制度設計（個人情報整備を含む）
- ・ 実施計画の策定、要綱策定
- ・ 包括的支援体制整備事業の地域の拠点である「地域福祉プラットフォーム」の運営を墨田区社会福祉協議会に委託
- ・ 支援会議及び重層的支援会議の試行実施

▼支援会議

回数	4回
協議事例数	13事例
メンバー	5部14課と社会福祉協議会
事例の進捗状況	年度内終了7件、継続6件

▼重層的支援会議

回数	3回
協議事例数	1事例
メンバー	5部14課
事例の進捗状況	年度内終了1件

(2) 令和4年度 ※ 国からの財政措置を受け本格実施

▼主な取組

- ・ 事務局体制強化（組織改正、人員増、専門職配置）
- ・ 相談支援ネットワークの拡充
- ・ モニタリングによる進捗管理の強化
- ・ チーム支援の意識醸成
- ・ 事例シートの配布による支援技術の向上

▼支援会議

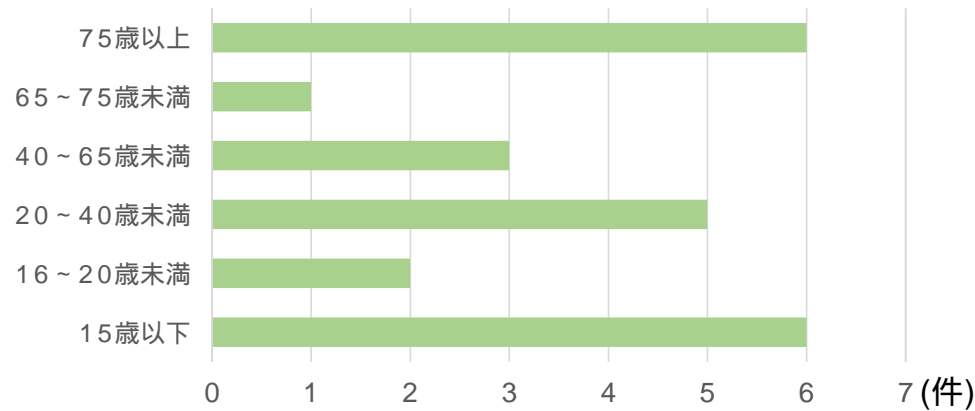
回数	10回
協議事例数	23事例
メンバー	6部16課と社会福祉協議会 指導室とすみだ教育研究所が参加
事例の進捗状況	年度内終了16件、継続7件

▼重層的支援会議

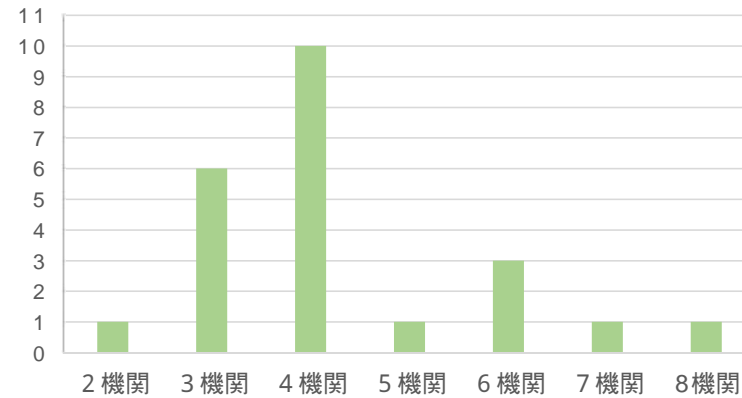
回数	6回 (内4回はひきこもり対策部会)
協議事例数	1事例
メンバー	6部16課
事例の進捗状況	年度内終了1件

令和4年度 課題事例分析

1. 年齢別件数



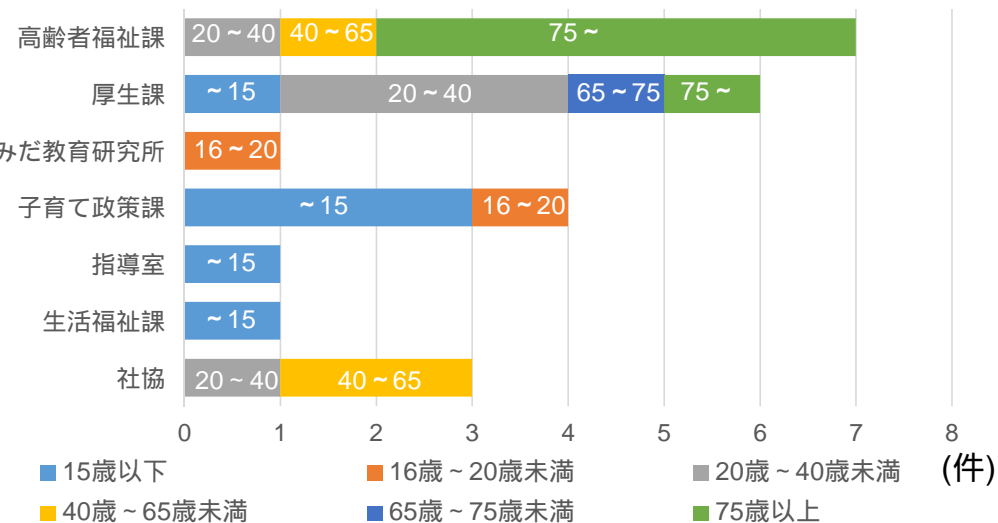
3. 各事例に關与している支援機関数



支援機関が8か所の例

- 【提出課】：厚生課
- 【課題事例への支援機関】
 - ・子育て支援総合センター
 - ・指導室
 - ・子育て政策課
 - ・暮らし・しごと相談室すみだ
 - ・江東児童相談所
 - ・さくら橋コミュニティセンター
- 【支援会議後の追加機関】
 - ・生活福祉課母子相談員
 - ・すみだ教育研究所

2. 課題提出課と年齢区分



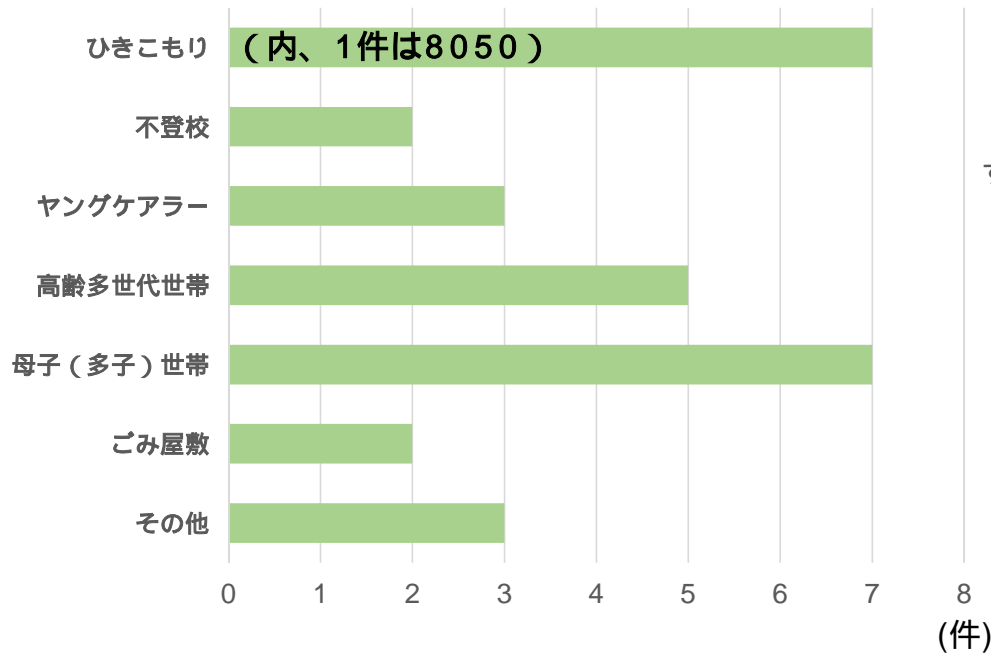
【事例ごとの年齢と支援機関に関する分析】

年齢区分別にみると15歳以下、75歳以上、20～40歳未満の件数が多い。

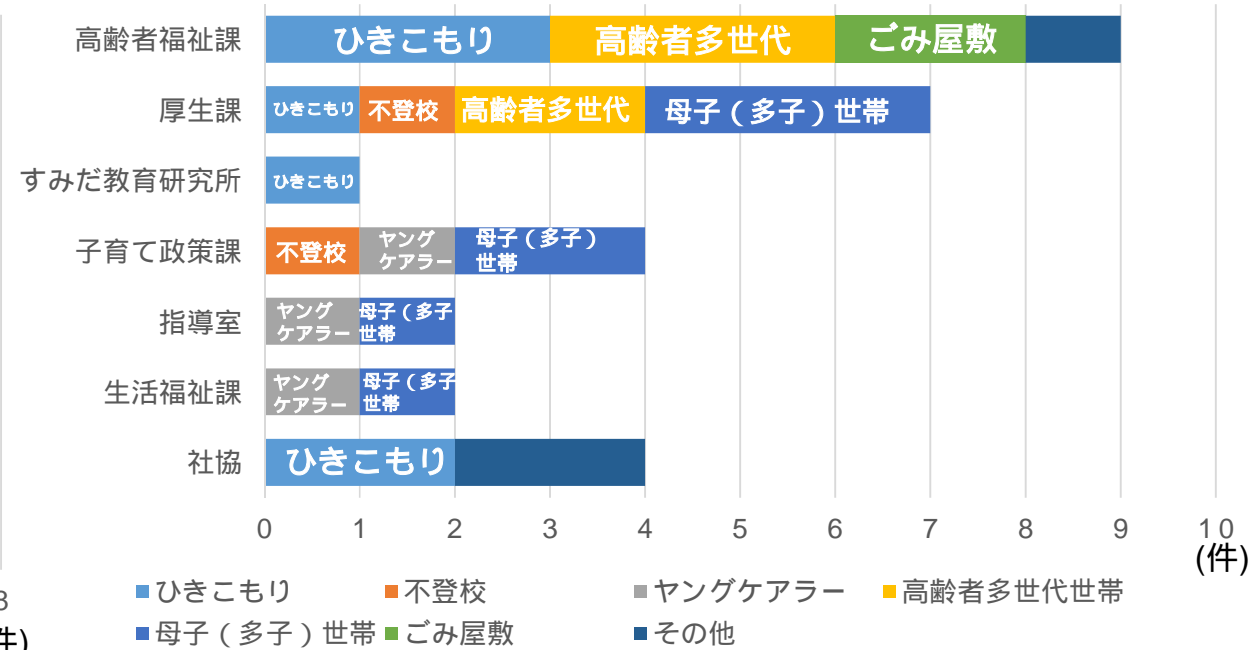
課題提出課と年齢区分について、高齢者福祉課は75歳以上が多いが、20～40歳未満と40～65歳未満が1件ずつあり、高齢者の世帯に關与したことで、同世帯の家族の課題を把握するきっかけとなり、複雑化・複合化した課題が浮き彫りになった。

課題事例を提出した主管課以外の支援関係課・関係機関について、複数の關与を把握でき、更に新たな關与機関の参加により、役割分担の整理・確立をすることができた。

4. 課題事例の類型



5. 事例提出課と類型



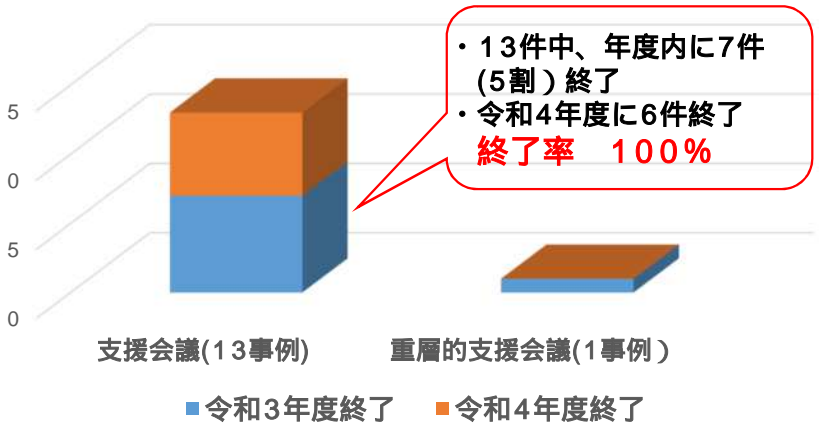
【課題事例の類型と事例提出課に関する分析】

各関係課で複雑化・複合化した課題が多いことが分かった。

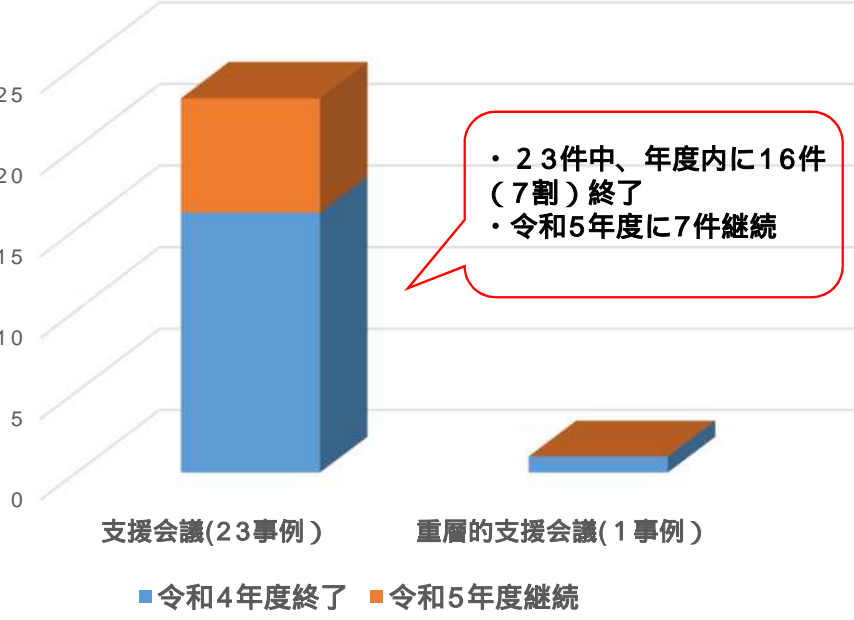
特に高齢者福祉課、厚生課(暮らし・しごと相談室すみだ)は多岐にわたる課題タイプの分布が見られ、より複雑化・複合化した課題を現場で対応していることが類推される。

子育て政策課の課題事例から地域の児童館やコミュニティ会館は地域の児童・生徒の見守りや支援を通じて、多問題家族の問題把握や掘り起こしにつながっているケースが多い。

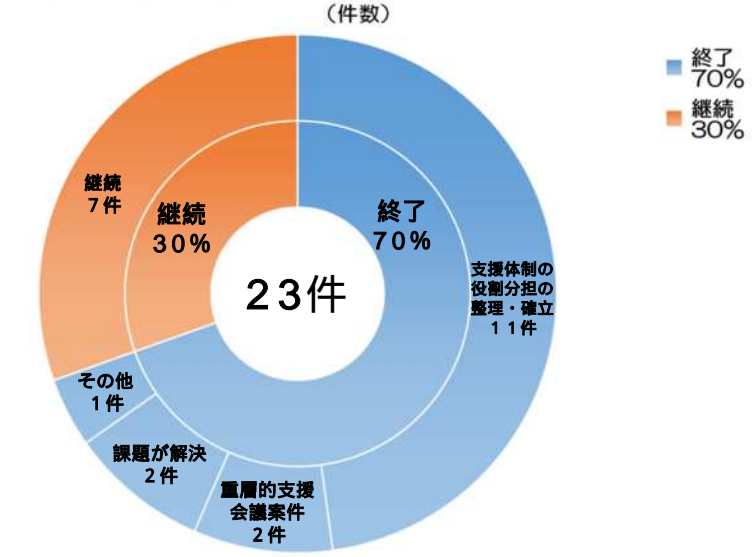
6. 令和3年度 モニタリング実施状況



7. 令和4年度 モニタリング実施状況



8. 令和4年度 モニタリングの結果



【終了の基準】

課題解決	2件
要支援者が死亡	0件
要支援者が区外転出	0件
支援体制の役割分担の整理・確立	11件
重層的支援会議案件	1件
その他(支援不能)	1件

(延2件)

【継続】
 上記の状況に至らない場合

【令和4年度実施の振り返り】

複数の支援機関の役割分担の際に、主管課の守備範囲を超えた狭間の支援について、**手帳要件**や**年齢要件**(高齢者は65歳以上、ヤングケアラーは18歳以下)などがネックになることがある。支援会議での情報共有が重要であり、各課の積極的な発信が、包括的な支援の実施につながる。役割分担を決定する際は、コーディネートをどこの支援関係課・関係機関が担当するかも決め手となる。重層的支援会議の案件は本人同意を得ることが絶対条件であり、困難な場合が多い。

【今後の課題】

- 課題事例の蓄積及び分析
- 制度の狭間の課題についてチーム支援の意識の醸成
- 支援会議参加者のスキルアップ(研修や講習会等の企画)
- 社会資源の情報共有、技術的な支援方法の確立

地域福祉プラットフォーム事業報告

墨田区社会福祉協議会が、京島・本所・八広の区内3カ所で、地域福祉プラットフォーム事業を実施しています。

1 経緯

- 平成28年度～令和2年度
区の補助を受けて墨田区社会福祉協議会が自主事業として実施
- 令和3年度～
「包括的支援体制整備事業」の地域の拠点として、墨田区社会福祉協議会が区からの受託事業として事業を開始

2 地域福祉プラットフォームとは？

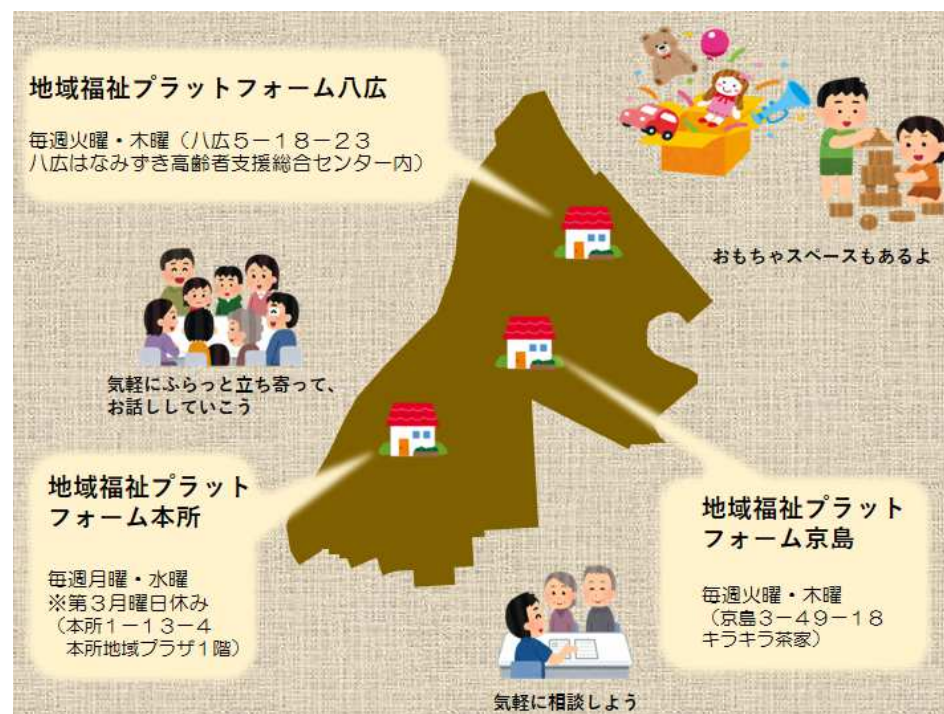
- 世代や属性を問わず、交流や相談ができる居場所
- 誰もが自由に入出りでき、気軽に話ができる“世代間交流を図る”地域の居場所
- 「くらしの困りごと」を常駐している社協のコミュニティ・ソーシャル・ワーカーに相談ができる場

3 実施曜日 ※詳細は別添案内チラシ参照

- 京島と八広 毎週火曜日と木曜日
- 本所 毎週月曜日と水曜日（第3月曜日は休み）

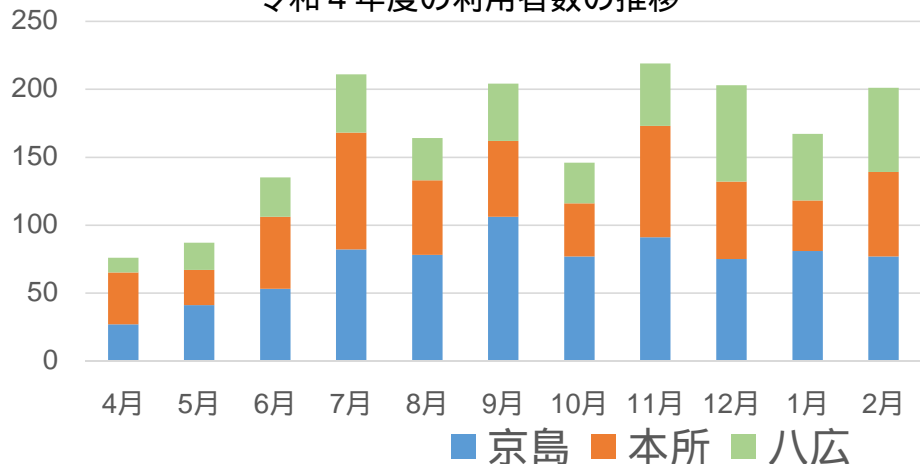
4 開設時間

午前11時から午後4時まで



1. 利用者数の推移

令和4年度の利用者数の推移



2年度から4年度までの利用者数

	令和2年度 (4月~3月)	令和3年度 (4月~3月)	令和4年度 (4月~2月)
京島	381名	435名	788名
本所	217名	412名	591名
八広	-名()	145名	434名
合計	598名	992名	1813名

前年度比で令和4年度の利用者は京島は**1.8倍増加**、
本所は**1.4倍増加** 合計で**1.8倍増加**しました。

八広は令和3年10月から開設
本所は令和3年10月にガランドール(石原四丁目)より移転

2. 相談者数及び相談内容

3年度から4年度までの相談者数

	令和3年度 (4月~3月)	令和4年度 (4月~2月)
京島	89名	68名
本所	46名	49名
八広	6名	36名
合計	141名	153名

【相談内容と対応(一部抜粋)】

長年ひきこもりであった方が「何かやらないといけない
と思っている」と来所。
ひきこもり支援に係る案内を行い、本人が関心を持った
支援機関と一緒にいき、利用が定着するまで支援しました。

家族のことで相談したいと来所(高齢・ひきこもり等)
傾聴の上で困りごとを整理し、解決方法を一緒に考え、
情報提供を行いました。
すぐに解決には至らなかったが、相談者にとっての居場所
となり、継続的に来所されています。

3. 地域福祉プラットフォームで行っているイベント・講座

地域福祉プラットフォームでは地域の特性に応じたイベント・講座を区民・地域活動者・関係機関等と連携して企画・実施しています。

1 目的

多世代交流、地域生活課題の学びの場、地域ネットワークの構築、地域福祉の担い手を増やすための活動者の育成

2 実績

令和3年度 29回、令和4年度(2月末) 55回

3 イベント一覧

【3か所共通】

- ・夏休みイベント『自分だけのエコバッグを作ろう！使おう！』
- ・スマホを活用した健康寿命講座

【本所】

- ・折り紙教室(毎月第一水曜)
- ・ハートライン・ミニサポート事業説明会(本所・京島で開催)

【京島】

- ・布の絵本読み聞かせ、おもちゃ遊び(毎月第二火曜)
- ・地域医療健康講座『夏バテを防ぎ 元気に毎日を過ごそう!』
- ・夏休みイベント『青銅版de表札づくり』

【八広】

- ・折り紙ボランティア活動(毎月第三木曜)
- ・ボードゲームで遊ぼう!



イベントの様子



各プラットフォームやすみだボランティアセンターでチラシを配布しています。墨田区社会福祉協議会のホームページや区報でも紹介しています。

4 . 地域の方々から寄せられている声

【利用者】

- ・話をしたいと思った時に、受け止めてくれる職員がいることで気分転換や気持ちの整理ができる。（共通意見）
- ・子どもを連れていける場所が増えてよかった。（乳幼児連れ保護者）
- ・家にいても話をする人がいなくて寂しいが、ここに来れば誰かしらいて、話ができる。（高齢女性）
- ・コロナ禍でも予約不要で気持ちが向いたときに遠慮なく来ることができてよい。（高齢女性）
- ・相談に対してアドバイスをもらえるので、たびたび来ている。（40代男性）

【事業協力者・町会関係者・民生委員・児童委員】

- ・色々な人来てもらうことができ、喜んでいる顔が見られて嬉しい。活動していて励みになる。
- ・実際にイベントに参加してみて、住民が気軽に立ち寄るための催しは大切だと感じた。地域のためになる場所と思う。
- ・知っている人しか利用しないのはもったいない。より周知したら良いと思う。
- ・マンションが増えて地縁がほとんどない若い世代の人が増えたので、気軽に立ち寄れる居場所ができたのは良い。
- ・町会や子ども会等、地域の組織に所属していない人が立ち寄れることが役割の一つだと思う。

5 . 令和5年度の目標

- ・チラシ・リーフレットの配布、説明会の開催による関係機関や区民の認知度向上
- ・定期的な事業報告会等の実施による地域福祉課題の担い手や民生委員・児童委員の認知度の向上
- ・CSWの地域課題分析による事業の推進